第 1 回臨時教育委員会 会議録

開 催 月 日　令和3年4月28日（水）

開 催 時 間　午後 1 時 30 分から午後 2 時 10 分まで

開 催 場 所　教育委員会室

出 席 委 員　教 育 長　三 井　孝 夫
教育長職務代理者　佐藤　喜美子
教育長職務代理者　岡 部　和 子
委　員　松 坂　浩 志、小 澤　幸 子

出 席 職 員　教 育 次 長　小田切三男
教 育 監　中 込　司
教 育 監　手島　俊樹
理 事　降籏　友宏
次長（総務課長）　藤原　鉄也
義務教育課長　秋山　克也
総務課総括課長補佐　武井　俊人
総 務 課 主 査　新海佐貴子
総 務 課 主 任　石 原 汐 璃

義 務 教 育 課
人 事 管 理 監　渡辺　安人
主幹・管理主事　永井　研一
管 理 主 事　小澤恵美子

傍 聴 人　0 名

報　道　1 名

会 議 要 旨

〔 教育長開会宣言 〕
長澤委員から都合により会議を欠席する旨の届け出があった。
議案第３号については、訴訟に関する案件である旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

第 3 号　訴訟の対応について
［説明］ 義務教育課
（非公開：会議の要旨）
訴訟の対応について、訴訟の概要、要旨、今後の対応等の説明を受け、全委員の賛同により原案どおり決定された。

【原案どおり決定】

2　報 告 事 項　な　し

3　その他報告
(1)　令和４年度採用山梨県公立学校教員選考検査実施要項について
［説明］ 義務教育課

岡 部 委 員　教えていただきたいんですけど。
ここにはちょっと分からないので、実施要項はできていると思うんですけど、５大学の大体の推薦人数を教えてください。

秋 山 課 長　　山梨大学が普通一般が６名。教職大学院の小学部が２名。特別支援で３名。都留文科大学の小学部が５名、特別支援が２名。あとは山梨学院短期大学部で１名。県立大学で１名。帝京科学大学で１名という形になっております。

岡 部 委 員　　ありがとうございました。同じくですが、今社会人の特別枠の情報は聞いたんですけれども、外国に行っている人も同じようにありますか。その方たちは、昨年コロナの関係もあるが、それでもやっぱり２年ですか。

秋 山 課 長　　二次選考という形で特別選考の英語等の選考がありますが、３年の実務経験という形で要件をさせていただいております。

岡 部 委 員　　コロナで戻ってくる場合でも、免除とかはないですか。やっぱり２年で認めるとかというのはないんですね。それは３年、コロナであろうが、何であろうが・・。

秋 山 課 長　　現在であれば３年という形で変更しておりません。

岡 部 委 員　　はい、分かりました。ありがとうございました。

教　育　長　　そのほか、いかがでしょうか。

佐 藤 委 員　　お願いします。
ここ数年かなり見直しをされて、人材確保のために大変苦労されていることがよく分かります。変更点等のＰＲは、どんなふうに行っているのか教えてください。

秋 山 課 長　　変更点につきましては、昨年度２月にもうすでに検討を重ねていて、決定したところにおいて県のホームページに、変更点についてはもうすでにアップしています。さらに1枚の簡単なＰＲパンフレットを作りまして、それぞれの大学と教育事務所等との関係の所に配布をしながら周知を図っているところでございます。

佐 藤 委 員　　ありがとうございます。

教　育　長　　はい、どうぞ。

佐 藤 委 員　　その変更点というのは、志願者が増えるように、志望者が増えるようにということなのか、変更点のポイントをかいつまんで教えてください。

秋 山 課 長　　１つ目のところにつきましては、本県では実施をしていなかったんですが、全国的には非常に多くの県で全員が免除ということではなくて、一定の力がある方というところになるんですが、全国で２２県で採用しております。今おっしゃられたとおり、どうしても採用数の確保ということもありますので、本県も一定の基準等を設けながら、次の一次検査免除ということで採用数の確保に努めて参りたいなと思っております。体育実技と音楽実技につきましても、これも特にこの関東近県ではほとんどの県でこれはもう実施をしていなくて、うちは関東近県と同じ試験で設定しておりますので、本県のみの受験者が今までそういう形になっていたというところでは、やはり人集めのところ、人数確保のところでは過去は非常にマイナスだったのかなと思っています。また全国的にも体育実技、音楽実技を削っていく所が多いこともございますので見直しをさせていただきました。同じように水泳のほうも同様です。
４つ目につきましては、高等学校のほうですが、やはり人材が受験者数を確保するということで、特に情報とか、難しい福祉と家庭科等につきまして、なかなか受験者が集まらないというところで、加点制度を加えることによって募集をしていくように考えまして変更させていただきました。
以上でございます。

佐 藤 委 員　　ありがとうございました。

小 澤 委 員　　今は教員になろうというふうに高校の時代とか、大学時代に、そういう志を持った学生さんにできるだけ手厚く、積極的に情報を発信してあげるような形ということで、昨年だったか、いつ頃だったか、山口県でやっている教員サポートシステムというふうな、志願者がそこに登録して、自分で聞きたいことが聞けて回答していただけるような、そういうサポート面のものをやっていたので、山梨もぜひという話を一つさせていただきました。それがその後どうかなということと。それから山梨に教員を呼ぶために、何か山梨ならではの何か強いＰＲの発信をぜひしたいなと思うんですけど。何か特に考えていらっしゃることがあるかどうかを聞きたいです。

秋 山 課 長　　昨年度も山梨教育協議会の中でいろんなご指摘をいただきまして、幾つか変更させていただきました。今ご指摘をいただきましたことにつきましても、今年度志願票とか、願書に各受験生にメールアドレスを任意なんですが記載をしていただきながら、そこでこちらのほうで様々な情報等を、例えば教員に関すること、現場の先生方の情報。あとは、もし万が一採用試験が合格できなかった場合につきましても、今後の臨時的職員の採用情報等々をご案内をさせていただくというところで、アドレスを今回新しく付加することによって、今言ったような形で受験生からの問い合わせもありますが、こちらの方から積極的に情報発信をしながら、受験生を確保していきたいなというふうに思っております。山梨県、なかなか独自というところは難しいことがございますが、２年ほど前から高校生や大学生を中心に、また現場の先生方を中心に参加していただきながら、教育フォーラムという形でやらせていただきました。今年も計画をしておりますので、今年度で３年目を予定しています。いろいろな毎年テーマを変えまして、１年目は山梨県に、例えば県外の人、県内の人、元々こちらの方か、また移住してきたと。そういった現在教員になっている方々といろんな方々を呼んで、山梨の教員とはどういうものかというのを発信してきましたし、昨年度は学生に近い新採用２年目の方々をそのフォーラムにお呼びしまして、実際の魅力について発信しています。またそういった毎年毎年中身を少し変えながら、山梨県の教員になっていただくような情報発信をまた積極的にしていきたいとは思っております。今後さらに今のところを考えながら対処していきたいと思っています。またご支援をいただければと思っています。
よろしくお願いします。

佐 藤 委 員　　志願者の志願書の中でクラブ活動や部活動で自分がやれるものを記入する欄がありまして、それは書かないでいいような変革は考えていらっしゃいますか。理由は、やっぱり自分の得意な部活の顧問だったらいいんですけど、着任した学校に先輩で部活のスポーツの顧問がいると、若い先生は経験したことのない部活の顧問にどうしても頼まれてやらざるを得ない。そうすると若いので一生懸命勉強して審判ができるようにとか、すごく努力するんですね。でも、同時に明日の授業づくりも困っているような状況の中で、ちょっと本末転倒じゃないかなと思う部分があって、できるだけ部活の縛りを解いてあげるような形に持っていけないかなということを常々思っていまして、スポーツを地域に移譲して、地域でもっと子どもたちもスポーツや文化を見てあげて欲しいなというふうに願っているんですけど。早く何かそういう一つのモデルケースが出るといいなと思っているんですが。志願書にもそれがあると、多分苦手なほうの学生は、それだけで逃げ腰になってしまわないかということがちょっと心配で、そんな話をしました。

秋 山 課 長　　また改めてこちらのほうで・・。

岡 部 委 員　　チラシを配って教員になろうかとか、そういうようなものがあちらこちらの県でどこもやっていて、山梨県も当然各高校にも貼ってあったりするのを私たちは訪問すると見るんですけど。センス的にはやっぱり若い人たちはホームページを見て、それをぱっと見て、でもよその県と比べると、山梨県を悪いと言っているわけじゃないですよ、やはりここをもっと分かりやすい、例えば給料が幾らだとか、もう山梨県はもちろん教員になったらいい所があるよとかいっぱい書いてあるんだけど、目で見て、ビジュアル的に分かりやすいのがいいなというふうに、取り込んでいきたいなというようにまたお考えくだされば と思います。

秋 山 課 長　　ありがとうございます。参考にさせていただきます。

佐 藤 委 員　　今のに係わって、多忙化改善で山梨独自に知事のお力があって２５人学級がスタートして、国も３５人でやって。山梨で光る所があると思うんですね、そういう所でね。あと、例えば教員でなくてもやれる仕事をＳＳＳ等の支援スタッフの方を学校に、マンパワーだと思うんですが、人材不足で、学校はすごく大変な状況ということで、それを改善のために山梨は独自にこういうふうに人を充てているとか、そういうことがばっと出せるといいかなと。現実は、この間送り出した学生で、一人は期間採用１年間やって新任地に行ったのと、それから梨大の特別支援で１年間勉強して、合計５年勉強して着任した学生がいまして、期採を経験したほうは、楽しいと、とにかく楽しいと。それは良かったなと思っていたんですけど。もう一人のほうは、もう想像をはるかに超えた忙しさに、とにかく土日も仕事をしていますって。でも嫌じゃないですよ。嫌じゃないんだけど、ああやっぱり現実としてそういう忙しさに追われているんだなと思うと、何か人的なサポートをしてやりたいなと本当に思います。

教　育　長　　はい、お願いします。

松 坂 委 員　　今その話の中で、私も実は３２、３歳ぐらいの今現在先生になった人たちの話の内容が、県内に実家がないと教員をやっていられないよという話が出ていたんですよね。どうしてかと言うと、県内に実家がないと、子どもの面倒を見てもらわないと、忙しくて、必ず何か親御さんの協力がないと先生忙しくて大変だから、県外の人が先生になったら本当に忙しすぎてなんていう話を先生たちがしていたんですよ。だから相当忙しいから、皆さん学校の子育て世代の先生がそういうふうな話をしているところを見ると、なかなか先生になって子育てはもう本当に無理だと思うみたいな話も出ていたので、そこのところの何か教員になるのをちょっと避けちゃうような女性の方とかいる可能性があるかななんて思って。そうすると、そこをちょっと避けないといけないかなと。そういった話を違う方向に向けないといけないかなということでいくと、教員になる学校が多いところは、先輩からそういう話を聞いちゃうと多分考えちゃうんだと思うんですね。だからその先輩の人たちがそういうことを言わないで済むような職場環境づくりと、そしてそういうふうな学校の先輩とかから学校のほうに、何か今ずいぶん変わっていくんだよみたいな内容とか、具体的に変わっていくんだというような、何かそういうアピールを、まあ実際には変えないといけないんですけど、何かその辺の方法が一つ必要なんじゃないかなというふうに、今日ちょっと実は思いました。この内容については、私は特に問題はないかなと思いますので、それでいいなと思いまして、そのようなことを聞きたいのが一つと。
あともう一つ。、小学校とか特別支援学校の小学部、体育の実技とか音楽の実技も今回まあ免除するということで、それは応募者を増やすということなんですけど。去年確かそんな議論がここでも出たなと思うんですけど。実質的に小学校だと音楽が先生ができなかったりするのは、何かカバーするんですか、そうじゃないんでしたっけ。

秋 山 課 長　　割と今専科の先生方が入ったりしますので、担任ということでなく専科等の中で何とか対応できるかなというふうに考えております。

松 坂 委 員　　ということは、一定の基準でもってできるだろうということで免除するということではなくて、全くできなくてもそこはカバーする体制を取るから大丈夫だよというふうに考えていいんでしょうか。

秋 山 課 長　　免許状を取る時に大学とかでは実技検査とかしておりますので、一定のレベルの担保はされているということを踏まえて実技等をカット、削除しているという考え方です。

松 坂 委 員　　そこが大変なところについては、専科の先生が一部お手伝いしたりするような体制が取られているという、そういうこといいですか。

秋 山 課 長　　はい。

松 坂 委 員　　はい、ありがとうございます。

佐 藤 委 員　　今の専科教育で、国もかなり力を入れようとしているようですけど。先駆けて山梨は専科教員をもっと増やして、小学校、中学校に入れていくような、そういう予算取りをしていただければなと思っています。小学校の先生、空き時間がないので、もう本当に一日子どもたちに貼り付いてもらって、そして終わってから教材研究や、明日の授業の準備ということになると思うんですけれども。中学校は部活の指導が終わって明日の準備に入るので、どうしても６時過ぎになるんですね。そうすると、本当に８時過ぎたりという実態があります。そこのところを何とか早く、そしてそれをうたって山梨だという呼び込みたいです。

秋 山 課 長　　ありがとうございます。

教　育　長　　今回の報告が選考検査ということだったのですが、委員の先生方、やはりしっかりとした教員の確保という意味で、この検査の幅を広げる以外にも情報発信とか、あるいは働き方改革とか、いろいろご意見をいただきました。選考検査、先生方おっしゃるとおり、この検査そのものの審議以外にも、そういったところの働き方をできるだけ改善していくということも非常に重要ですし、そういうことをやっていることの情報発信も非常に重要だと。おっしゃるとおりだと思います。当面、働き方改革につきましては取組方針も新たにしたところですので、そういったこともこんなことを県教育委員会ではやっていますというのを合わせてＰＲしていくことにも取り組みたいと思いますし、先ほどありましたように日々情報発信、いろいろの工夫はしておりますが、多分メインはＳＮＳとか、ホームページとかがやっぱり今の時代メインになると思うんですが、まあどんな形が一番ＰＲできるのかと。そしてそのＰＲの仕方の中身ですね。分かりやすさとか、ダイレクトに欲しい情報にたどり着けるのかどうなのかとか、日々いろいろなことを工夫しながらやっていきたいとご意見を聞いて思いました。また専科教員というのも、やはり事務局ともお話する中で、やっぱり議論になっています。すぐにどんな形というのもあれですけど、当然大きな課題だと思っていますので、検討を進めたいというふうにも思っております。
非常に幅広なご意見をいただきました。また整理していきたいと思いますが、ほかよろしいですか。
はい。では、ありがとうございました。
では、次に日程に移ります。
藤原総務課長お願いいたします。

【 了 知 】

〔　教育長閉会宣言　〕

以　　上